

シリーズ 景観74

市は「住むひとが誇りと愛着を感じ、訪ねるひとの心に残る松江の景観づくり」を推進しています。



北惣門橋

きたそうもんばし

『みんなで残したい松江の景観400選集』から
景観審議会が特にお薦めする景観

No. 256

「松江で最も新しく架け替えられた木橋（平成23年の選定当時）です。橋の向こうにある「松江歴史館」とともに、松江らしい景観スポットとなっています」と推薦いただきました。

北惣門橋は、松江城の築城と同じ慶長16（1611）年ごろに架けられたものと考えられており、江戸時代の史料によると、この橋の城側には「北惣門」（脇虎口之門ともいう）という門があったことから「北惣門橋」と呼ばれていました。その後明治時代に架けられ

たといわれる橋は眼鏡橋と呼ばれ、石造のアーチ橋でしたが、現在の橋は江戸時代の絵図に基づき、木橋で反りをもった太鼓橋として復元されています。平成6年11月27日には三世代夫婦による渡り初め^(※)を行い、祝いました。

架橋から25年が経ち老朽化が進んでいることから、現在架け替えを検討しているところです。新しい橋になっても松江の景観として次世代に受け継がれていくことでしょう。

※「三世代夫婦による渡り初め」

一つの家族に親子、孫世代の夫婦がいることは大変珍しく、おめでたいことから、これにあやかり「世代を超えて永く受け継がれますように」という願いが込められています。

「みんなで残したい松江の景観400選集」は、市ホームページでご覧いただけます。
【問い合わせ】まちづくり文化財課 ☎55-5387
松江の景観400選